

琴平町学校等再編整備検討協議会資料 【第3回】

琴平町教育委員会 生涯教育課学校整備推進室

統合小学校検討資料（各小学校の規模）

施設名称	建築年月日	経過年数（年）	延床面積（㎡）	敷地面積（㎡）
琴平小学校校舎	昭和54年	44	4,311	12,800
〃 体育館	昭和53年	45	953	
榎井小学校校舎	昭和54年	44	3,677	12,100
〃 体育館	昭和57年	41	895	
象郷小学校校舎	昭和53年	45	1,830	8,500
〃 校舎	平成14年	21	920	
〃 体育館	昭和57年	41	690	
新統合小学校校舎（想定）	-	-	3,900	11,000～12,000
〃 体育館（想定）	-	-	920	

統合小学校検討資料（各小学校の必要経費・R4実績）

(千円)

施設名称	水道光熱費	修繕・工事費	委託料等	スクールバス費用	合計
琴平小学校校舎	5,600	4,100	2,300	0	12,000
榎井小学校校舎	3,200	1,700	2,900	0	7,800
象郷小学校校舎	4,300	2,300	2,700	0	9,300
合 計	13,100	8,100	7,900	0	29,100
新統合小学校（想定1）	9,500	2,700	2,900	10,000	25,100
新統合小学校（想定2）	8,700	2,700	3,300	10,000	24,700

統合小学校検討案（新築の場合）

	新しい土地または既存学校用地に新築							
	①新規土地に統合小を新築	評価	②琴平小学校に統合小を新築	評価	③榎井小学校に統合小を新築	評価	④象郷小学校に統合小を新築	評価
教育環境	1つに統合することにより、一体的な教育が可能となる。あわせて施設の更新により、質の高い教育環境を提供できる	○	同 左	○	同 左	○	同 左	○
交通状況	-	-	金刀比羅宮の門前町に近接し、観光シーズンに近隣道路の通行量が増加する。また、JRの線路が近接している。	△	比較的通行量の多い幹線道路沿いの面している。観光シーズンには近隣道路の通行量が増加する。	△	県道沿いではあるが交通量は比較的少ない。ただし、近隣の通学路として利用される歩道の一部区間が未整備である。	△
通学手段	徒歩通学圏域外ではスクールバスの検討が必要	△	同 左	△	同 左	△	同 左	△
災害拠点としての利用	浸水被害の少ない候補地の選定が必要	△	浸水想定区域である（金倉川・土器川・満濃池）	△	同 左	△	浸水想定区域である（土器川・満濃池）金倉川は浸水想定区域外	○

統合小学校検討案（新築の場合）

	新しい土地または既存学校用地に新築							
	①新規土地に統合小を新築	評価	②琴平小学校に統合小を新築	評価	③榎井小学校に統合小を新築	評価	④象郷小学校に統合小を新築	評価
整備費用 (概算)	整備費用 28.0億円 土地購入・造成費用 2.7億円 合計 30.7億円 うち実質町負担額 約17億円	△	整備費用 28.1億円 解体費用 2.7億円 合計 30.8億円 うち実質町負担額 約16億円	△	整備費用 28.0億円 解体費用 2.4億円 合計 30.4億円 うち実質町負担額 約16億円	△	整備費用 28.1億円 土地購入・造成費用 0.8億円 解体費用 2.1億円 合計 31.0億円 うち実質町負担額 約16億円	△
ランニングコスト (R4実績に基づき 試算)	光熱水費 9,500千円 修繕・工事費 2,700千円 委託料等 2,900千円 スクールバス概算費用 10,000千円 合計 25,100千円	△	同 左	△	同 左	△	光熱水費 8,700千円 修繕・工事費 2,700千円 委託料等 3,300千円 スクールバス概算費用 10,000千円 合計 24,700千円	△
耐用年数	60年間の使用を目途に長期の利用が可能、また計画的に改修を行うことにより70～80年の使用が可能	○	同 左	○	同 左	○	同 左	○

統合小学校検討案（新築の場合）

	新しい土地または既存学校用地に新築							
	①新規土地に統合小を新築	評価	②琴平小学校に統合小を新築	評価	③榎井小学校に統合小を新築	評価	④象郷小学校に統合小を新築	評価
設計・工事期間	大規模な新築となる為、設計や校舎、体育館及び外構工事で約5年間の期間が必要	△	同 左	△	同 左	△	同 左	△
想定されるリスク	候補地の選定に時間を要する可能性がある。 また、財政的な負担を考慮し整備を行うため規模等について慎重な検討を要する。	△	新築の際に教育活動に支障が生じるため、一時的に他校への移動が必要となり児童や学校に負担がかかる。また、財政的な負担を考慮し整備を行うため規模等について慎重な検討を要する。	×	同 左	×	同 左	×
総合評価	<p>【メリット】</p> <ul style="list-style-type: none"> ①新しい施設で過ごせる。 ②一体的な教育が可能となり、質の高い教育環境を提供できる ③1校に統合することによりランニングコストが抑えられる ④既設の学校を利用しながら統合小を整備できるため、工事中の児童や学校への負担が少ない <p>【デメリット】</p> <ul style="list-style-type: none"> ①スクールバスが必要となる ②英米費用がかかる。 ③候補地選定に時間を要する可能性がある ④整備期間が長期になる ⑤通学路等の周辺整備が必要となる 		<p>【メリット】</p> <ul style="list-style-type: none"> ①同左 ②同左 ③同左 <p>【デメリット】</p> <ul style="list-style-type: none"> ①同左 ②同左 ③工事期間中、一時的に他校への移動が必要になるため児童や学校に負担が生じる ④同左 		<p>【メリット】</p> <ul style="list-style-type: none"> ①同左 ②同左 ③同左 <p>【デメリット】</p> <ul style="list-style-type: none"> ①同左 ②同左 ③同左 ④同左 		<p>【メリット】</p> <ul style="list-style-type: none"> ①同左 ②同左 ③同左 ④浸水想定区域外である（金倉川） <p>【デメリット】</p> <ul style="list-style-type: none"> ①同左 ②同左 ③同左 ④同左 	

統合小学校検討案（長寿命化改修の場合）

	既存学校用地で長寿命化改修を行う ※長寿命化改修とは構造体の劣化状況、水道、電気、ガス管などのライフラインの更新、省エネ化、多様な学習内容を実践できる環境整備を行うことにより建物の長寿命化を図る改修工事					
	①琴平小学校に統合して長寿命化改修を行う	評価	②榎井小学校に統合して長寿命化改修を行う	評価	③象郷小学校に統合して長寿命化改修を行う	評価
教育環境	1つに統合することにより、一体的な教育が可能となる。また、既存施設の改修のため制限はあるが、更新を行うことにより質の高い教育環境を提供できる。	△	同 左	△	同 左	△
交通状況	金刀比羅宮の門前町に近接し、観光シーズンに近隣道路の通行量が増加する。また、JRの線路が近接している。	△	比較的通行量の多い幹線道路沿いの面に面している。観光シーズンには近隣道路の通行量が増加する。	△	県道沿いではあるが交通量は比較的少ない。ただし、近隣の通学路として利用される歩道の一部区間が未整備である	△
通学手段	徒歩通学圏域外ではスクールバスの検討が必要	△	同 左	△	同 左	△
災害拠点としての利用	浸水想定区域である（金倉川・土器川・満濃池）	△	同 左	△	浸水想定区域である（土器川・満濃池）金倉川は浸水想定区域外	○

統合小学校検討案（長寿命化改修の場合）

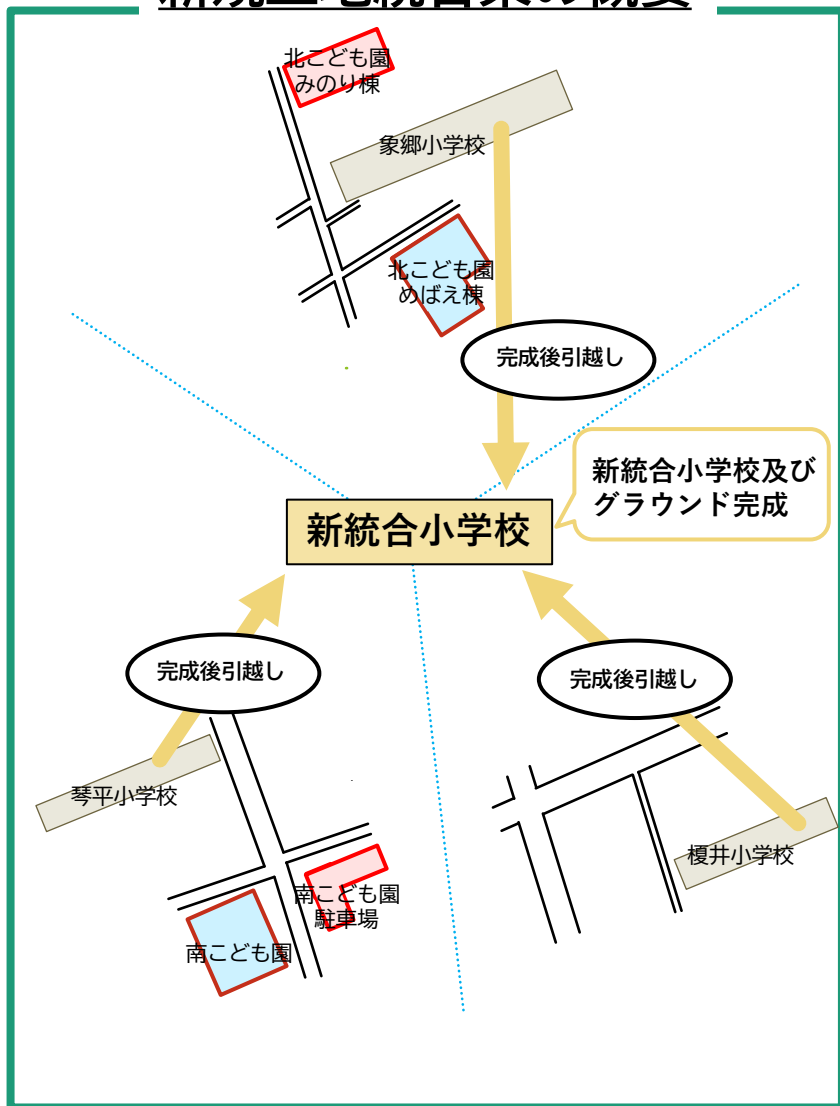
既存学校用地で長寿命化改修を行う						
※長寿命化改修とは構造体の劣化状況、水道、電気、ガス管などのライフラインの更新、省エネ化、多様な学習内容を実践できる環境整備を行うことにより建物の長寿命化を図る改修工事						
	①琴平小学校に統合して 長寿命化改修を行う	評価	②榎井小学校に統合して 長寿命化改修を行う	評価	③象郷小学校に統合して 長寿命化改修を行う	評価
整備費用 (概算)	整備費用 19.5億円 解体費用 0.5億円 合計 20.0億円 うち実質町負担額 約13億円	△	整備費用 17.4億円 解体費用 0.5億円 合計 17.9億円 うち実質町負担額 約11億円	△	整備費用 17.0億円 土地購入・造成費用 0.8億円 解体費用 0.8億円 合計 18.6億円 うち実質町負担 約11額億円	△
ランニングコスト (R4実績)	光熱水費 9,500千円 修繕・工事費 2,700千円 委託料等 2,900千円 スクールバス概算費用 10,000千円 合計 25,100千円	△	同 左	△	光熱水費 8,700千円 修繕・工事費 2,700千円 委託料等 3,300千円 スクールバス概算費用 10,000千円 合計 24,700千円	△
耐用年数	校舎、体育館ともに築40年以上経過しているが、長寿命化改修を行うことで30年を目途に使用期間を延長できる	△	同 左	△	同 左	△

統合小学校検討案（長寿命化改修の場合）

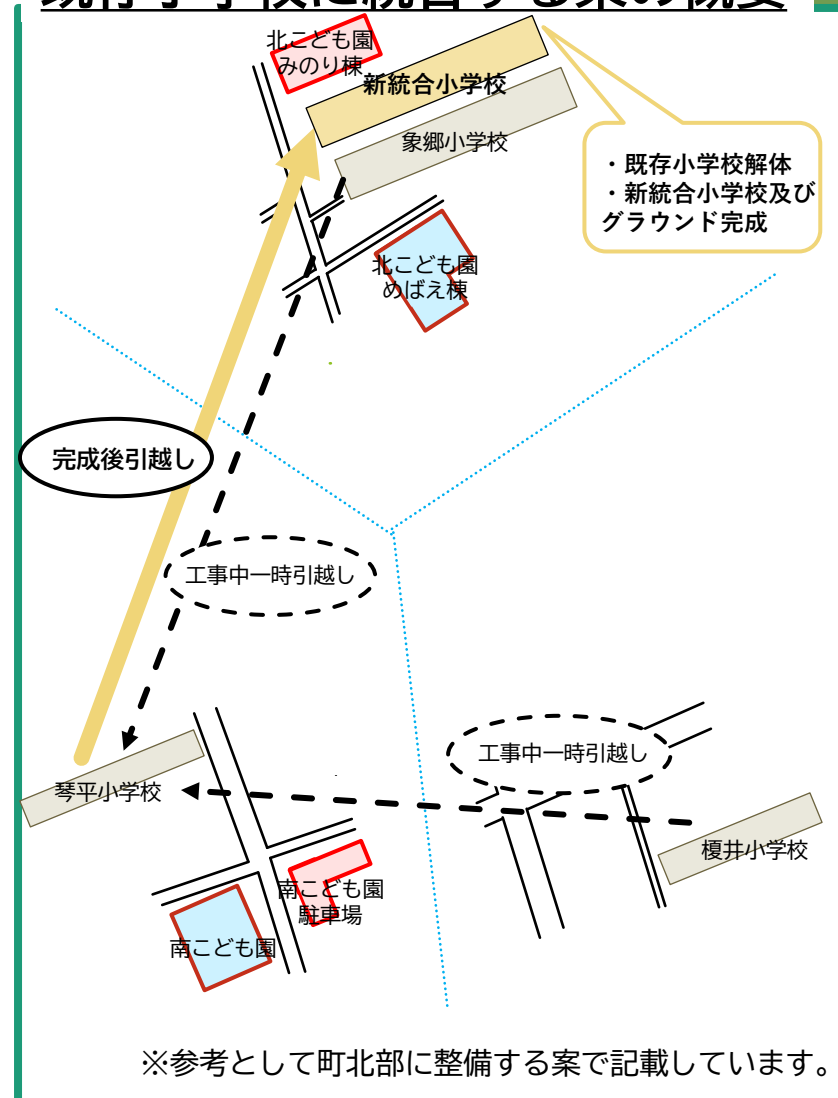
<p style="text-align: center;">既存学校用地で長寿命化改修を行う</p> <p>※長寿命化改修とは構造体の劣化状況、水道、電気、ガス管などのライフラインの更新、省エネ化、多様な学習内容を実践できる環境整備を行うことにより建物の長寿命化を図る改修工事</p>						
	琴平小学校に統合して 長寿命化改修を行う	評価	榎井小学校に統合して 長寿命化改修を行う	評価	象郷小学校に統合して 長寿命化改修を行う	評価
設計・工事期間	大規模な改修となる為、設計や校舎、体育館及び外構工事で約4年間の期間が必要	△	同 左	△	同 左	△
想定されるリスク	築後年数が経過しており、大規模な改修や設備の更新が必要となる。また長寿命化改修の際に教育活動に支障が生じるため、一時的に他校への移動が必要となり児童や学校に負担がかかる	×	同 左	×	同 左	×
総合評価	<p>【メリット】</p> <ul style="list-style-type: none"> ①一体的な教育が可能となり、質の高い教育環境を提供できる ②整備費用が新築よりは抑えられる ③1校に統合することによりランニングコストが抑えられる <p>【デメリット】</p> <ul style="list-style-type: none"> ①スクールバスが必要となる ②築年数が経過しており、新築ほどの使用期間を望めない。 <p>※長寿命化改修後30年の使用を想定</p> <ul style="list-style-type: none"> ③工事期間中、一時的に他校への移動必要のため児童や学校に負担が生じる 		<p>【メリット】</p> <ul style="list-style-type: none"> ①同左 ②同左 ③同左 <p>【デメリット】</p> <ul style="list-style-type: none"> ①同左 ②同左 ③同左 		<p>【メリット】</p> <ul style="list-style-type: none"> ①同左 ②同左 ③同左 ④浸水想定区域外である（金倉川） <p>【デメリット】</p> <ul style="list-style-type: none"> ①同左 ②同左 ③同左 	

新統合小学校案の概要

新規土地統合案の概要



既存小学校に統合する案の概要



※参考として町北部に整備する案で記載しています。

統合認定こども園検討資料（各こども園の規模）

施設名称	建築年月日	経過年数（年）	延床面積（㎡）	敷地面積（㎡）
南こども園	昭和58年	40	949	1,808
北こども園みのり棟 （旧北幼稚園）	昭和56年	42	365	951
〃 みのり棟 （旧北幼稚園）	平成28年	7	85	
〃 めばえ棟 （旧北保育所）	昭和56年	42	507	1,388
旧南幼稚園 （休園中）	昭和58年	40	410	1,646
旧南幼稚園 （休園中）	平成13年	22	86	
新統合こども園（想定）	-	-	1,400	2,500

統合認定こども園検討資料（各こども園の必要経費・R4実績）

(千円)

施設名称	水道光熱費	修繕・工事費	委託料等	合計
南こども園	3,100	2,200	1,200	6,500
北こども園	3,400	900	3,300	7,600
合計	6,500	3,100	4,500	14,100
新統合こども園（想定）	3,700	1,600	1,400	6,700

統合認定こども園検討案

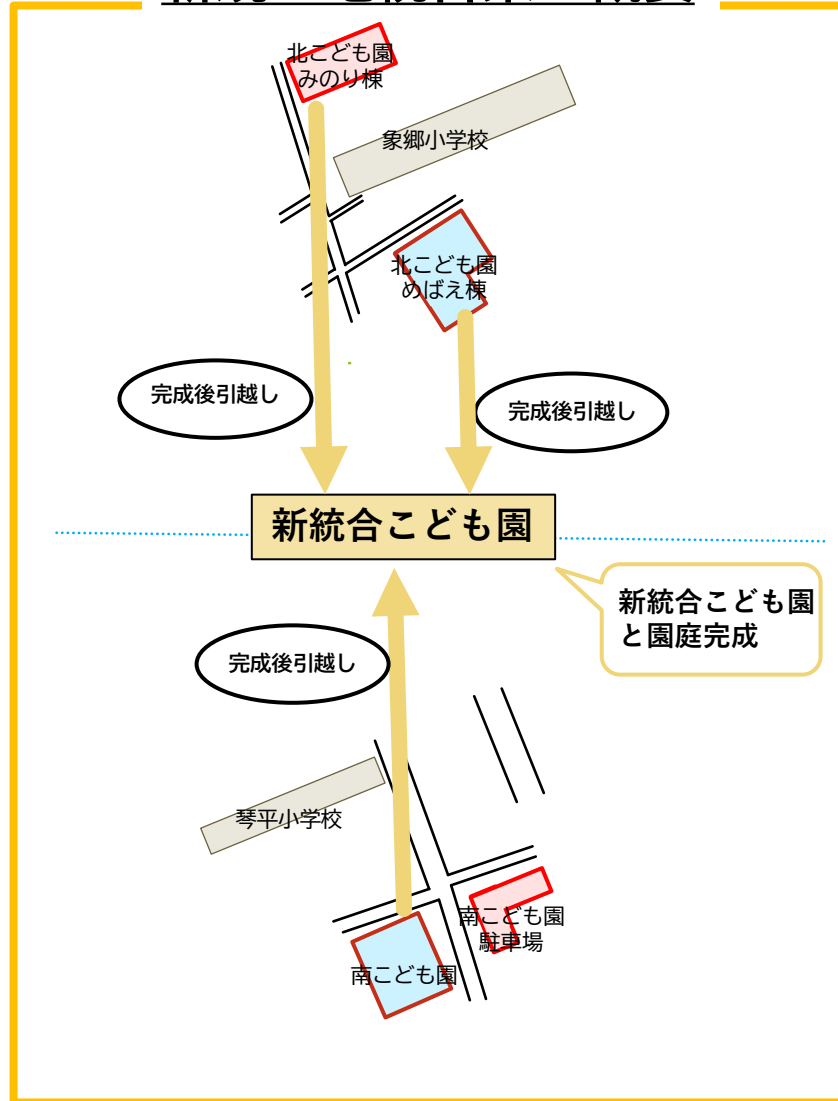
	新しい土地または既存こども園用地に新築					
	①新規土地に 統合こども園を新築	評価	②南こども園に 統合こども園を新築	評価	③北こども園に 統合こども園を新築	評価
教育環境	1つに統合することにより、一体的な保育・教育が可能となる。あわせて施設の更新により、質の高い環境を提供できる	○	同 左	○	同 左	○
交通状況	-	-	施設に至る道路の幅が狭いため送迎時に渋滞が生じる また、送迎時の駐車場の確保が必要	△	県道に面しており送迎は比較的良好に行われている	○
災害拠点としての 利用	浸水被害の少ない候補地の選定が必要	△	浸水想定区域である（金倉川・満濃池）土器川は浸水想定区域外	○	浸水想定区域である（土器川・満濃池）金倉川は浸水想定区域外（みのり棟）	○
整備費用 (概算)	整備費用 7.3億円 土地購入・造成費用 0.6億円 合計 7.9億円 うち実質町負担 約6額億円	△	整備費用 7.2億円 解体費用 0.7億円 合計 7.9億円 うち実質町負担 約6額億円	△	整備費用 7.3億円 解体費用 0.4億円 合計 7.7億円 うち実質町負担 約6額億円	△
ランニングコスト (R4実績を元に算出)	光熱水費 3,700千円 修繕・工事費 1,600千円 委託料等 1,400千円 合計 6,700千円	△	同 左	△	同 左	△
耐用年数	60年間の使用を目的に長期の利用が可能、また計画的に改修を行うことにより70～80年の使用が可能	○	同 左	○	同 左	○

統合認定こども園検討案

	新しい土地または既存こども園用地に新築					
	①新規土地に 統合こども園を新築	評価	②南こども園に 統合こども園を新築	評価	③北こども園に 統合こども園を新築	評価
設計・工事期間	新築となる為、設計や校舎、体育館及び外構工事で約4年間の期間が必要	△	同 左	△	同 左	△
想定されるリスク	候補地の選定に時間を要する可能性がある。また、財政的な負担を考慮し整備を行うため規模等について慎重な検討を要する。	△	新築の際に保育・教育活動に支障が生じるため一時的に他の園舎や仮設園舎に移動が必要となり児童・保護者、園に負担がかかる。また、財政的な負担を考慮し整備を行うため規模等について慎重な検討を要する。	△	新築の際に保育・教育活動に支障が生じるため一時的に他の園舎に移動が必要となり児童・保護者、園に負担がかかる。また、財政的な負担を考慮し整備を行うため規模等について慎重な検討を要する。	△
総合評価	<p>【メリット】</p> <ul style="list-style-type: none"> ①新しい施設で過ごせる。 ②一体的な教育が可能となり、質の高い保育・教育環境を提供できる ③1園に統合することによりランニングコストが抑えられる ④既設のこども園を利用しながら新こども園を整備できるため、工事中の児童や園への負担が少ない <p>【デメリット】</p> <ul style="list-style-type: none"> ①候補地選定に時間を要する可能性がある 		<p>【メリット】</p> <ul style="list-style-type: none"> ①同左 ②同左 ③同左 <p>【デメリット】</p> <ul style="list-style-type: none"> ①通園路等の周辺整備や送迎時の駐車場の確保が必要となる ②工事期間中、一時的に他の園舎や仮園舎への移動必要なため児童や園に負担が生じる 		<p>【メリット】</p> <ul style="list-style-type: none"> ①同左 ②同左 ③同左 <p>【デメリット】</p> <ul style="list-style-type: none"> ①同左 ②同左 	

新統合こども園案の概要

新規土地統合案の概要



既存こども園に統合する案の概要

